

国指定史跡武田氏館跡を探る

甲府市教育委員会 佐々木 満

1. 武田氏館跡の概要

- ・川田館から躑躅ヶ崎の地へ
- ・武田氏館の歴史

2. 武田氏館跡の主な発掘調査成果

① 主郭部(中曲輪と北側虎口の調査)

- ・武田氏段階の庭園遺構(『甲陽軍鑑』に記載のある泉水?)
- ・武田氏滅亡後の石塁と空堀
- ・北側虎口出土の堀跡
- ・館跡の変遷(主郭部南土塁の変遷)

② 西曲輪(北側枳形虎口と中段平場の調査)

- ・虎口門跡と石積み
- ・上段基部から堀跡検出(火災層から炭化した穀物出土)

③ 北側諸曲輪(味噌曲輪及び無名曲輪)

- ・味噌曲輪西土塁内から門跡→ある時期に使用されていた門礎石
- ・無名曲輪検出の堀跡(味噌曲輪北堀と連結の可能性)

④ 主郭部大手口(平成12年度・平成15年度～継続中)

- ・大手石塁の検出と三日月堀の発見
- ・惣堀土橋基部から階段検出(メインストリートの再検討)
- ・大手土橋内から古期の土橋と堀

3. 発掘調査から明らかになった館像

- ・武田氏段階の主郭部は堀一重のシンプルな館。「(人は石垣、人は城…)?」
- ・足利將軍家を規範とした文化様式。
- ・武田氏滅亡後の大改修により様相が一変。天守台の構築と新たな曲輪の造営。
(「其国ふしん土手ひかしの丸石かき出来可候哉」→甲府城ではなく武田氏館跡か?)

4. 武田氏館から甲府城へ

- ・拠点構造の変化…中世的な方形館から近世的な城郭へ
(武田氏館にみる構造の変化、そして甲府城へ)
- ・都市構造の変化…古府中から新府中へ
(中世的な市場の否定と経済の掌握→商工人地の郭内組込み)

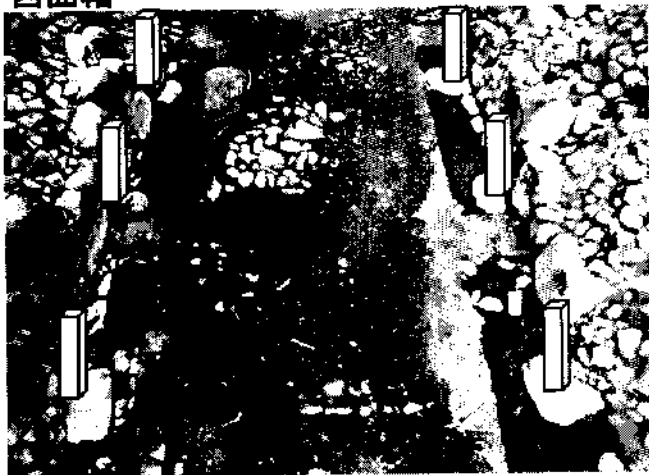
武田氏館跡の概要

別名躑躅ヶ崎館（つつじがさきやかた）と呼ばれる武田氏館は、永正16年（1519）武田信虎によって築かれた方形の館です。信虎が最初に築いた館は、堀一重の主郭部（現在武田神社のある境内地）のみであったと考えられていますが、武田氏の勢力拡大とともに施設も増え、東日本でも最大級の規模を誇る戦国期居館となりました。館の周辺や南側には家臣屋敷地や商工人地、寺院などが造られ、武田氏館を頂点とした甲府は中部でも屈指の城下町であったと考えられます。以後現在に至るまで甲府は山梨の政治・経済の中心であることから、武田氏館は県都甲府の原点と言えます。

武田氏館跡に関わる略年

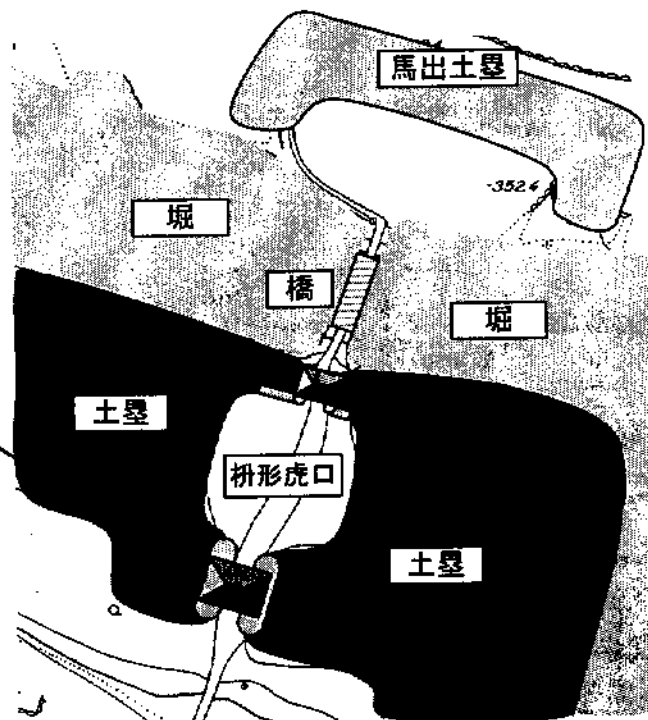
年号	西暦	出来事など
永正16年	1519	武田信虎によって武田氏館が築かれる。この年に有力国人衆の集住が漸行される。
永正17年	1520	栗原信友ら有力国人衆が府中を退去。積翠寺丸山（要害山）に城を築く。
大永元年	1521	駿河より今川勢乱入。大井夫人要害山へ避難。武田晴信誕生
大永3年	1523	湯村山城築城。
大永4年	1524	一条小山に砦を築く。
天文2年	1533	武田氏館焼失。
天文7年	1538	武田氏館で和歌の会が開かれる。
天文10年	1541	晴信、父信虎を駿河へ追放。
天文12年	1543	武田道鑑屋敷から出火し、武田氏館類焼。萩原彦次郎屋敷から出火。館再建。
天文13年	1544	御主殿の棟上。
天文20年	1551	太郎義信と今川氏の娘の婚儀によって西曲輪の造営が始まる。
天文21年	1552	義信、西曲輪の新屋敷へ移る。
天正元年	1573	信玄、信濃国駒場で病死。
天正4年	1576	勝頼、帯那郷の住民に命じて要害城の修築を命じる。
天正9年	1581	勝頼、真田昌幸らに命じ、新府城を築城し移る。
天正10年	1582	新府城自落し、武田氏滅亡。信長、武田氏館跡の仮御殿に入る。本能寺の変後徳川氏入国し、後北条氏と新府で対陣。和解後平岩親吉を入れ、甲斐を守備させる。
天正18年	1590	羽柴秀勝、甲斐を領有する。
天正19年	1591	加藤光泰、甲斐を領有する。加藤氏により主郭部内に石塁が築かれる。
文禄2年	1593	浅野長政・幸長父子、甲斐を領有する。
慶長6年	1601	平岩親吉、甲府城代として再入国。

西曲輪

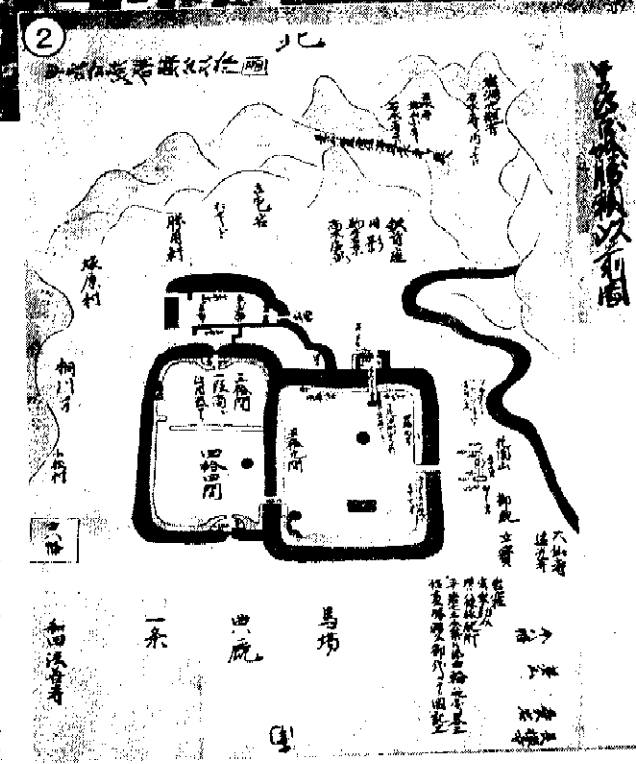
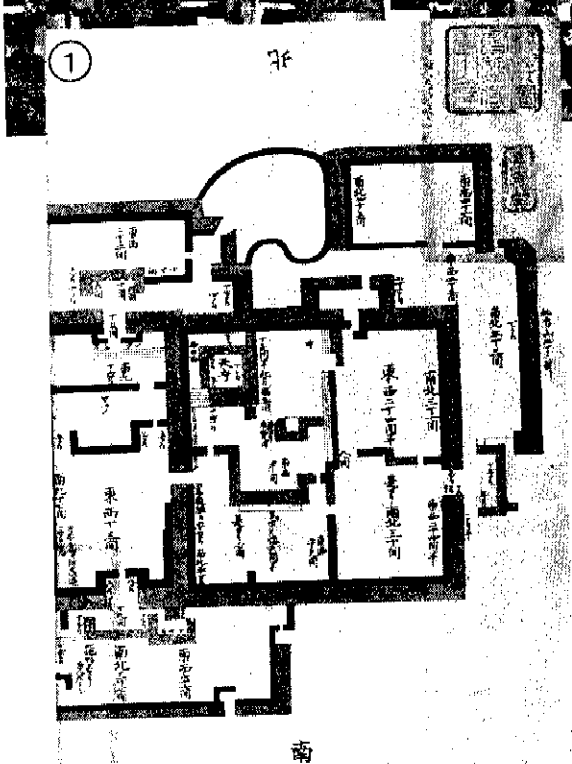
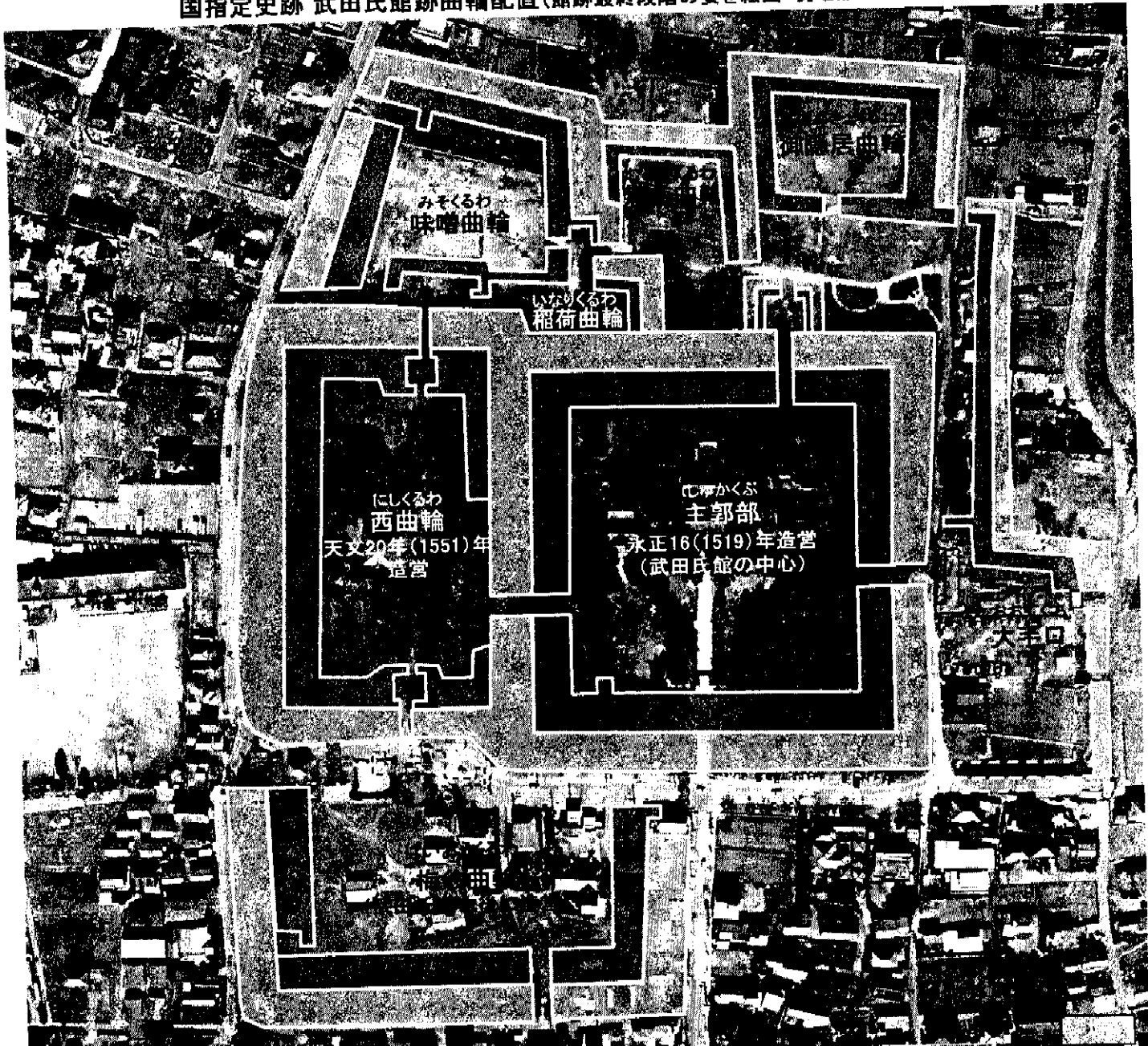


西曲輪北側馬形虎口門跡

西曲輪の南北には馬形虎口が設置されています。図のように上からみた形が一升枀のように見えることからそのように呼ばれていますが、中でも図のような形態は、武田氏関連城郭の中でも限られた城郭のみに築かれていることから、武田氏が権威の象徴として用いた可能性があると考えられています。



国指定史跡 武田氏館跡曲輪配置 (館跡最終段階の姿を絵図・現地地形から復元)



①浅野家絵図「古府中」(浅野文庫蔵)
②「甲州古城勝頼以前図」(恵林寺蔵) (『定本山梨の城』郷土出版社より)



武田氏館跡主郭部
(現武田神社)

石塁
(武田氏館跡)

三日月堀



大手石塁と三日月堀

武田氏館跡の正面玄関を守るための施設として、土橋正面には石塁が築かれています。石塁は、石積みの技法などから武田氏滅亡後に築かれた防壁と考えられます。

また、石塁直下からは武田氏時代の三日月堀を新たに発見しました。三日月堀は、武田氏が侵攻した長野・静岡など武田氏領国の城郭を中心に数多く見られる施設で、土塁とセットになって丸馬出を形成していました。『甲陽軍鑑』では、山本勘助が馬出の重要性を説く場面が記述されており、丸馬出のことではないかと言われています。